

戦中・戦後のマンガと子どもたち ～胸ときめかせたヒーロー・ヒロイン～

開催趣旨

このたび昭和館では「戦中・戦後のマンガと子どもたち ～胸ときめかせたヒーロー・ヒロイン～」と題し、特別企画展を開催する運びとなりました。

昭和の初めに少年雑誌ブームが起こり、子ども向けのマンガも数多く描かれ、「のらくろ」「タンク・タンクロー」といった子どもたちのヒーローが誕生しました。しかし、昭和13年の国家総動員法の施行によって、社会や文化などさまざまな分野に統制が及び、マンガや子どもたちを取り巻く状況は徐々に戦争の影響を受けることとなりました。

終戦後、焼け跡からの復興に取りかかった時期に、子どもたちに大きな楽しみを与えたのもまた、マンガでした。娯楽の乏しかった時代、マンガの持つ“笑い”の力、そしてそこに描かれる夢のある世界は、子どもたちに明るさをもたらしました。

戦中・戦後と世相は大きく変わりましたが、いつの時代でもマンガは子どもたちの胸ときめかせるものでした。本展では子どもたちはどのようなマンガを手にしていたのか、また子どもたちはマンガにどのように描かれたのか、マンガと子どもを取り巻いていた状況を、実物資料、写真を交えて紹介します。

記

- 【主催】 昭和館
- 【会期】 平成17年3月5日(土)から4月10日(日)
- 【会場】 昭和館3階 特別企画展会場
- 【入場料】 特別企画展は無料(常設展示室は有料)
- 【イベント】 講演会(漫画史研究家・帝京平成大学教授 清水勲氏)
平成17年4月3日(日)
紙芝居がやってくる!
平成17年3月26日(土)・27日(日)・4月2日(土)
- 【開館時間】 10:00～17:30(入館は17:00まで)
- 【休館日】 毎週月曜日
- 【内覧会】 平成17年3月4日(金) 15:00～17:00
- 【所在地】 〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1
- 【問い合わせ】 TEL 03-3222-2577 FAX 03-3222-2575
- 【交通(電車)】 地下鉄【九段下駅】から徒歩1分(東西線・半蔵門線・都営新宿線4番出口)
J R【飯田橋駅】から徒歩約10分
- 【交通(車)】 首都高速西神田ランプから約1分
- 【ホームページ】 <http://www.showakan.go.jp>
- 【その他】 有料駐車場有り(普通乗用車のみ・1時間200円)
団体予約承ります

ブース構成

戦前の子どもマンガ

1. 子どもマンガの芽生え



大正時代、それまでは大人の娯楽であったマンガが、本格的に子どもも読者として引き込んでいった。

大正3年(1914)には『少年倶楽部』が創刊され、読み物の他に読み切りのマンガも掲載された。大正6年には、『朝日新聞』などで活躍していた岡本一平が、児童雑誌『良友』に「珍助絵物語」、翌7年には「平気の平太郎」を連載した。また、一平の弟子である宮尾しげをも多くの子どもマンガを描き、大正12年『東京毎夕新聞』に連載した「団子串助漫遊記」は爆発的な人気を博し、大正14年に発行された単行本はベストセラーとなった。

2. 子どもマンガの開花

昭和初期に少年・少女雑誌のブームが起こり、読み物の他にマンガも数多く描かれ、子ども向けマンガの世界が花開いた。

そのなかから「のらくろ」「ダン吉」「タンクロー」といったヒーローも生まれ、子どもたちを夢中にさせた。また、マンガの発行部数が増えるなか、子ども向けマンガのあり方を真剣に考え、質的向上を目指して、描き手であるマンガ家たちによって「日本児童漫画家協会」「童心漫画団」などの団体が結成された。

	
<p>マンガを読む子どもたち 沼野謙(JPS)撮影</p>	<p>『のらくろ』単行本 昭和7年～8年発行</p>

「マンガも 国のために」

1. マンガにも統制が

昭和13年(1938)の国家総動員法の施行によって、社会のさまざまな分野に統制が及んだ。それは出版の分野も例外ではなく、出版社ごとの用紙の割当て配給が始まった。また、大政翼賛会から出された、マンガによる戦争協力の要請に応えるため、マンガ家による団体、「新日本漫画家協会」が発足した。子どもたちの手にする雑誌やマンガにも、少しずつ時局的な内容が表れてきた。

	
<p>『フクちゃん部隊』3巻・4巻 昭和13年(1938)12月</p>	<p>『翼賛一家』横山隆一画 昭和15年(1940)12月</p>

2. 「少国民」とマンガ

昭和16年(1941)の「日本少国民文化協会」の発足によって、子どもたちは「少国民」と呼ばれるようになり、マンガや子どもたちを取り巻く状況は徐々に戦争の影響を強く受けるようになっていった。

マンガ家たちは「日本漫画奉公会」を結成するが、雑誌の統廃合も進められ、活動の場も狭められた。また戦争が激化していくなか、用紙不足により雑誌は減ページを余儀なくされ、徐々に薄く、粗末なものになっていった。

	
<p>漫画翼賛展(仮称)課題 「英米撃墜」「軍人援護」「空閑地利用」などが課題としてあげられている。 昭和18年(1943)6月</p>	<p>紙芝居「進め一億火ノ玉父さん」 小川武画</p>

・復興と共に発展したマンガ

1. 焼け跡からおこったマンガ熱


終戦後、マンガは焼け跡の子どもたちに大きな楽しみを与えた。娯楽の乏しかった時代、マンガの‘笑い’の力、夢のある世界は、子どもたちに明るさをもたらした。新聞の4コママンガも復活し、物資の乏しいなかでもマンガは次々と出版され、待ちこがれていた子どもたちに熱狂的に迎えられた。

	
<p>『週刊子供マンガ新聞 第6号』 昭和21年(1946)6月23日発行</p>	<p>『ブロンディ 第1集』 昭和24年(1949)4月発行</p>

2. より楽しくより身近に

戦後、マンガ雑誌が多数発行されるようになり、マンガは子どもたちにとって、より身近なものとなっていった。雑誌は読者獲得のため、マンガの内容の充実だけでなく、付録を増やすといった工夫もするようになった。総合雑誌のなかでもマンガの占める割合は増えていき、雑誌のサイズも拡大され、多色刷りのものが増えるなど、雑誌の形態や内容も変化していった。次々と発行されるマンガ雑誌では、戦後登場した手塚治虫などの新しいマンガ家たちによる、子どもたちに楽しみを与える作品が次々と発表された。

	
<p>『冒険活劇文庫 創刊号』 昭和23年(1948)8月発行</p>	<p>『アトム赤道をゆく』 『少年』8月号附録 昭和28年(1953)8月</p>

	
『週刊少年マガジン 創刊号』 昭和 34 年(1959)3 月 26 日号	『週刊少年サンデー 創刊号』 昭和 34 年(1959)4 月 5 日号

イベントの開催

会期中、下記の日程でイベントを開催します。

講演会

清水勲先生（漫画史研究家・帝京平成大学教授）「漫画史のなかの子ども漫画」

平成 17 年 4 月 3 日（日） 14：00～

会場：科学技術館 6 階 第 3 会議室

講演の後に、戦中のアニメ映画を上映。

『桃太郎の海鷲』（日本初の長篇マンガ映画。昭和 18 年公開）

紙芝居がやってくる！

平成 17 年 3 月 26 日（土）・27 日（日）・4 月 2 日（土）

会場：2 階広場

会場にはメンコ・すごろくなどで遊べるコーナーも設置します。

（連絡先：昭和館学芸部 TEL 03 - 3222 - 2577）